

津島市タウンミーティング（わんぱくクラブ）会議録

日程 令和5年7月9日（日）

午前9時00分～10時33分

会場 蛭間地区コミュニティセンター

1 意見交換（要旨）

テーマ「2大プロジェクト！『まちづくり再生と子育て支援』」

津島市で進めているまちづくり再生・子育て支援施策の紹介・進捗状況について市長より説明し、参加者と意見交換を行った。

（1）小中学校の宿題のタブレット端末移行について

意見

市はタブレット端末の導入を小中学校に行ったが、いまだに宿題は紙ベースで行われている。名古屋市ではタブレット端末で宿題をやる場所もあると聞いた。市はIT関係を推進しているということで、宿題のタブレット化の予定はあるのか？学童保育でも、宿題の支援をしているが、タブレット化となるとWifiの整備等が必要となる。教育環境ががらっと変わるのかなというところで、子育て支援のなかで学童のそうした通信環境整備も検討をしていただけるのか。

市職員

宿題については、市としては各小中学校にタブレット端末用の学習ドリルソフトを導入している。基本的にはタブレットを持ち帰っての宿題は可能ではあるものの使用の有無については学校の裁量である。蛭間小学校では紙でやるということをしている。使用していない理由としてはタブレットに宿題を持ち帰ることはできるが、先生は宿題を回収する必要があることから、手間などの課題もあることが理由ではないだろうか。

市長

しかし、せっかくタブレット端末を整備したのだから早くおっしゃったような形になるのが望ましい。いつやるかというだけの話である。市の日本一のプログラミング教育・デジタル化を推進していくなかでそうしたことも早くできるようになるといい。プログラム教育については大学などの協力を得ており指導力も上がっている。デジタルの委員会があるので、共通の方針でやっていくといいのではないかとはいえないか。それこそが時代に合った形である。学童の件はもう一度説明をしていただきたい。

意見

学童で宿題をやっている中で、タブレット化となると、オフラインでもできるならいいが、オンラインのみとなると通信が必要になる可能性があるためWifi環境を市の方で学童の施設にも整備できるのか。

市職員

宿題のタブレット端末移行をめぐる状況について、学童でも利用できるようにしないというのはごもつともであり、紙ベースから変わりつつある時代であるのでそうした環境の変化は大切である。今すぐ Wifi 環境の整備というのはできないが、先々の状況の変化を踏まえて対応したい。

(2) 学童保育の指定管理者の見直しについて

意見

学童保育の指定管理者の公募について、現状維持を願っている。保護者の負担が大きいいとされているが、保護者の負担も減ってきている。

市長

今回非公募から公募に見直した。私が市長になってから 2 回、指定管理の更新の機会があった。その時、現在の指定管理者について 2 回とも担当から A 評価という判定であったのでそれを踏まえ非公募を承認してきた。それを改めるきっかけになったのは、1 月に 3 通来た市長への手紙の内容による。私も議員だったころから、学童と付き合いがあるのでよくやっているなど思っていた。

手元の神守子どもの家に関する資料を見てほしい。私は学童を第 2 の我が家と位置付けており、建物のガラスにも断熱性など高い機能を持たせた。防災対策もしており、設計にこだわった。

学童の委託料は、平成 25 年は 3,250 万円だったのが今では 1 億円になっている。市は学童の要望に沿って毎年委託料を増やしていった。これは後で調査をしたところ、県内 54 市町村中 2 番目に 1 人あたりの学童の委託料が高い。県の平均の倍である。そういう状況でも学童に対して市長への手紙で訴えがあった。その内容を 3 通読み上げる。

1 つ、学童保育についておやつ代を含めて 1・2 年生が 14,000 円と他市よりも高額であり働き方を改めなければならず家計負担が大きいいということ。

1 つ、共働きのため多忙で学童を利用しているにも拘わらず土日のイベントが多く保護者への負担が大きいいということ。

1 つ、高額かつ保護者の集まりが多いため学童が使いづらいと聞いている。津島市の子育ては近隣に比べ底辺のレベルであり市に住んでいることを後悔する気持ちであるということであった。

これは利用者の心の叫びであると思い、これを機に実態調査を行った。結果が県内 2 番目の委託料と周辺自治体に比べ高額な保育料であった。また、他市町村は夏休み期間の単独受け入れを行っているのに、津島市では行っていない。こうした市民の声を市はシャットアウトできない。

現在は、一者指定の非公募で実施しているが、これを公募として、現在の指定管理者を含め応募していただければ結構なので、決めるものである。私も苦渋の判断である。しかし他市町村よりも高い保育料であり、学童の要望を受け入れて県内 2 番目の委託料である。高い保育料が利用希望者の足切りになっているという声があり、それは無視で

きない。こうしたことを踏まえ、公募でやっていくということである。

公募への方針転換は、市長への手紙が直接の原因である。公募に対して応募があるか、ないかわからないが、市民の声を前に非公募のままでやっていくというのはできないというやむを得ない判断である。

意見

公募の話について、そもそも市の学童は保護者主体の運営であった。また他市町村に比べ受け口が広い。ところによっては受け入れる児童の範囲や条件が細かく決まっているところもある中で、市は幅広い。夏休みの受け入れ状況などはあるが、年々利用者は増えている。蛭間小学校は学童の適正人数とされる40人だが他の小学校だと70人などもあるようで、津島市は受け入れの間口が広いことから、適正人数外となることによって国・県の補助金が貰えていないのではないかと。支援分けによって、補助金も潤沢になってよい学童施設になると思う。

市長

2つの視点がある。かつては学童は1小学校1つだったが、東小学校には空き教室を利用して2つある。神守小も分けるという案があったが最適解を目指して1つにした。一方分けるというのも選択肢である。新設した学童の施設は分割可能な大きさにしてあり、支援分けが可能である。津島市の学童は今後待機児童の可能性もあるが今はない。夏休みのみの受け入れについては現状の学童はやっていない。私が議員であった頃にも夏休みの受け入れについての要望を受けており、市長になっても訴え続けたができないということだった。なので居場所づくり事業を始め別途対応をした。これについてはコロナで運営が難しかったが、今年度は復活するだろう。

市職員

支援分けと補助金について補足をする。補助金を積極的に受け入れるということについては市としても最善の努力をするというのはあるが、何よりも子どもの環境が第一であり、施設は整いつつある。そうしたなかで支援分けを検討していく必要があるだろう。

意見

学童の児童同士について、今は指導員が面倒をよく見てくれて皆仲良くやっているが、他市町村の公設公営の学童だと施設員はあまり子どもにかかわらないと聞く。そのことでいじめの問題が出たりするそう。今の学童は高額でもいい環境となっている。そのことはわかってもらいたい。

市職員

指導員との信頼関係を踏まえ、指定管理者の公募にあたっては、2つの条件を設ける。1つは、今の指導員を引き続き雇用するように声がけをすること。1つは、指定管理期間を原則的な3年から5年とすること。これによって環境を維持していきたい。

意見

指導員を継続していくことを考えていただけるのはありがたいが、もし指定管理者が変わったなら保育料を下げることになった時に、人件費も下げられ、そのしわ寄せが出

てしまうのではないか。

市職員

賃金については雇用主によって決められる。また、すべての学童の指導員が継続の意志を示すかもわからない。雇用と被雇用の中の話で、どれだけ現在の指導員が維持し続けられるか注視している。

(3) 通学路の歩道の状況について

意見

子どもが通学団で朝学校へ通っている。通学路について、以前に比べて多少歩きやすくなっているがまだ歩道が狭く危険なところもある。今後どうしていく考えか。

市長

私が市長に就任してから、何万キロに及ぶグリーンベルトを、特に市東部はしっかり整備したと理解しており交通安全対策となっている。だが十分でない。毎年安全委員会のなかで危ないところについてはチェックしたり、これは学校と一緒にになって改善を行っているところである。

市職員

通学路の安全については、市長が述べられた通り毎年通学路安全プログラムにより必要な対策をやっている。毎年2小学校ほどやっているので4年に1度しか各学校には回ってこないが、個別のところは道路管理者によって必要に応じて対応しているので別途相談していただきたい。

市職員

津島市公式LINEアカウントの再構築を今年度9月から実施するが、道路の陥没などに対する通報システムを導入し対策できるようになっていく。このことについては市民の皆さんに改めてお知らせしていく。

市長

これにより、皆さんの意見をすばやく市へお届けできるようになる。これは議員に相談しなくても直接言っていただければ対応ができるようになる。ぜひご利用ください。

市職員

市公式LINEについては、登録・追加が必要になる。また情報は緊急性の高いもの以外選んだ情報だけが通知されるものになるので、ぜひご登録をお願いします。

(4) 学童の今後について

意見

学童について一言。市のまちづくりや学童の委託料が1億円を出していることを知らなかったのでよくわかった。現状の学童は子どもも親も満足しているし感謝している。非公募から公募に変わるとのことだが、今の状態が維持できると望ましい。

市長

学童は第2の我が家である。それがどう楽しくいられるかは大切である。だから建物にも予算をかけた。学童への思いは同じである。しかし第1の我が家がまずは大切である。私自身の経験で、仕事がちで子どもとの触れ合いができなかったことを寂しかったと自分の子どもから最近初めて耳にした。そういうことから第1の我が家も大切であると痛感した。いずれにしても、第2の我が家を充実していきたいとの思いは皆さんと一致している。思いを共有して市としては進めていきたい。

以上。